

「東北大学環境報告書 2008」に対する評価

東北大学環境報告書評価委員会

東北大学環境報告書評価委員会は前年度に引き続き、環境保全専門委員会刊行の「東北大学環境報告書 2008」に対するレビューを行った。

「東北大学環境報告書 2008」は、過去2回[2005年度版(2006年公表)、2007年版]の刊行に続くものである。表・裏表紙と総頁は変わらないが、内容的には年次進行のデータ改訂に止まらず、いくつかの変更が加えられている。その大きな一つが地球環境問題への本学としての取り組みである。井上明久総長は巻頭メッセージにおいて、今後5年間にわたるキャンパスからの温室効果ガスの年率2%削減目標を紹介するなど、より具体的な環境施策に踏み込む指針を提示しているが、その表明に沿った内容が本書で紹介されている。さらに本書各論中の、「環境マインドを備えた人材育成」、「環境関連研究の推進」の項目は全体観が在り、且つ、分かりやすく纏まっており、高く評価したい。

本報告書の優れた内容が、引き続き学内外の教育・研究にフィードバックされ、本学の一層の発展に資することを期待する。

昨年度のコメントでも触れたことであるが、「環境マネジメント」の内容そのものが未だ固定概念として定まったものになっているとは言い難い状況にある。従って、次年度以降の報告書作成においても、引き続き、従前の方針に拘泥することなく、「広く」かつ「深い」内容の掲載を期待するが、編集にあたって以下の指摘を参考にされたい。

- 1) 環境負荷に関する状況など基礎となるデータは、その信頼性を増すためにも、キャンパス毎の数字を提示した上で、大学全体としての数値に纏める必要がある。これは、昨年度のコメントの一部である「環境マネジメント体制の構造が、キャンパス毎であれば、少なくともインプット/アウトプットはキャンパス毎に整然と並べ、総括として東北大学全体での評価に繋げるほうがわかりやすい。」との指摘と実質同一である。データの収集・積算に一層の工夫を望むところである。
- 2) 「2005年度版」、「2007年版」報告書では、具体的な環境目標及び活動計画の紹介と、その実施状況評価が示されていたが、「2008年版」報告書では温室ガス排出削減のみが目標として強調され、他の目標及び活動計画については、2007年度までの実施状況評価も2008年度の目標・計画も明確には記されていない。大学での環境に関わる目標・活動計画は、広く研究・教育の項目までも取り入れ、個別に年度ごとの達成評価が実施されることが望ましい。
- 3) 刊行第一版である「2005年度版」から引き続き本書には、環境とは関わりのない内容をも含んだコンパクトな大学紹介冊子としての編集意図が感じられるが、今後は環境事象に特化した内容に絞り込む必要がある。それと同時に、記載内容の精査を行ったうえで、記述に濃淡をつける等工夫して、読む楽しさも期待するところである。
- 4) 次回以降の刊行版では、本コメントに対する対応についても、触れることが望ましい。